

安心・安全な暮らしに関する特別委員会 議事次第

〔 令和7年6月26日(木)  
午後1時30分～  
於：第6委員会室 〕

1 開 会

2 所管事項の調査

「危機事象が発生した際の要配慮者への支援について」

3 委員間討議

「今後の調査・研究テーマについて」

4 閉会中の継続審査及び調査

5 今後の委員会運営

○ 管外調査

日 程：令和7年8月26日(火)～27日(水)

6 そ の 他

7 閉 会

安心・安全な暮らしに関する特別委員会 出席要求理事者名簿  
(令和7年6月府議会定例会)

【危機管理監】	
危機管理監付企画参事	万 所 ル ミ
危機管理監付企画参事	福 井 克 実

【危機管理部】	
危機管理部理事 (災害対策課長事務取扱)	山 本 健 一
危機管理総務課長	西 山 宜 昌

【文化生活部】	
生活衛生課長	小 林 哲

【健康福祉部】	
高齢者支援課長	松 尾 治 樹
地域福祉推進課長	宮 村 匡 彦
健康対策課長	戸 田 英 和
医療課長	古 川 浩 気

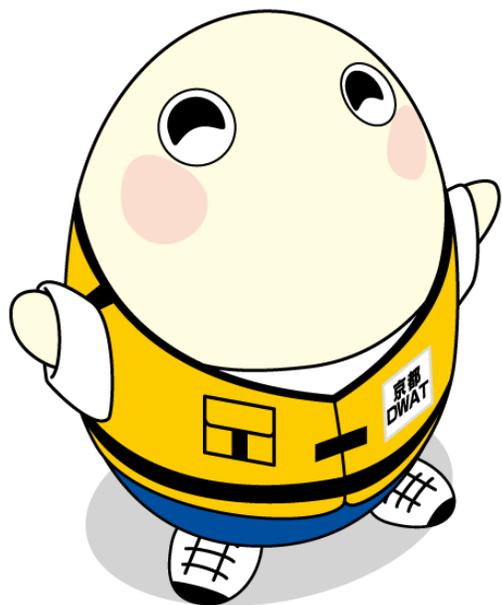
【公安委員会】	
交通部次長 (交通企画課長事務取扱)	塩 見 幸 三
警備部次長 (警備第一課長事務取扱)	中久保 光 彦

( 計 11 名 )

令和7年6月26日

安心・安全な暮らしに関する特別委員会

# 京都府の災害時要配慮者支援について



京都府健康福祉部 地域福祉推進課

# 京都府における災害時要配慮者支援

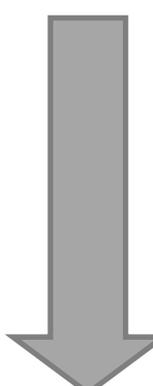
年度	取組内容
平成24年度	京都府災害時要配慮者避難支援センターを設置
平成25年度	○市町村の取組を支援するため「災害時要配慮者支援指針」を作成 ・避難所のユニバーサルデザイン化に向けたガイドライン ・要配慮者が確実に避難できるよう「要配慮者支援ガイドブック」 ・避難所で福祉的な支援を実施できる人材育成の育成
平成26年度	京都府災害派遣福祉チーム“京都DWAT”養成開始
平成28年5月	熊本地震において、熊本県益城町内避難所へDWAT派遣 【全国初の出動】
平成29年度	保健医療福祉調整本部・地域本部を設置 ※H30に府地域防災計画に位置付け
平成30年7月	西日本豪雨において、岡山県倉敷市内避難所へDWAT派遣
令和6年1月	能登半島地震において、石川県七尾市等へDWATを派遣
令和7年	災害対策基本法等の改正により福祉支援が追加。DWATの活動場所に在宅・車中泊支援が追加

# 災害時「要配慮者」とは

災害対策基本法では、「高齢者、障害者、乳幼児その他の特に配慮を要する者」と定義

- 高齢者(要介護の者)
- 障害者・児
- 乳幼児 ……等のほか、妊産婦、乳幼児、外国人、疾病のある者、  
避難時または避難所で支援が必要となった人

いつ自分がその立場になってもおかしくない。  
他人事ではない。



【人】 平時に市町村が把握する避難行動要支援者だけでなく、  
災害によって「誰もが」要配慮者になる可能性がある

【地域】 少子高齢化による人口構成の変化・在宅で暮らす重度の  
要介護者や障害者の増加・核家族化や地域コミュニティの弱体化

災害による被害は皆にとって同じではない

…普段の生活で支援が必要な人はより支援が必要に、支援が不要だった人も支援が必要になる可能性

**災害の大きさだけで地域への影響をはかることはできない**

…その地域はどのような地域であるかで、災害のインパクトは異なる

# 京都府災害時要配慮者避難支援センター

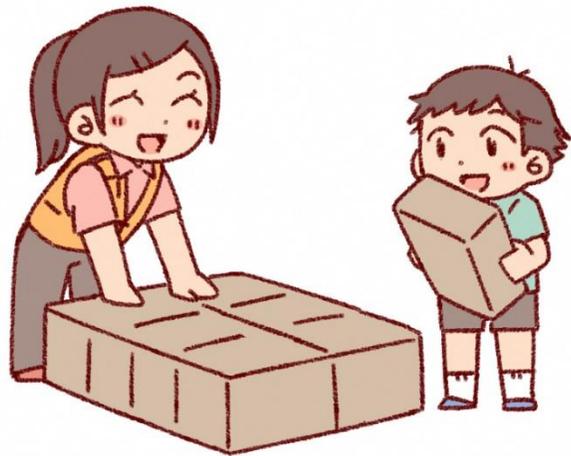
災害時要配慮者支援全体を構築することで要配慮者支援の取組を開始

体制名称	京都府災害時要配慮者避難支援センター
設立	平成25年3月28日
事務局	京都府、京都府社会福祉協議会
経過	東日本大震災での要配慮者の課題を受けて設立 課題 ①避難できる仕組み ②避難生活の二次被害防止
事業内容 特徴	原子力災害及び大規模災害時の受入・応援態勢 の調整 府、市町村、関係団体を含め「参画団体」として運営 (協定ではない。=並列の関係)

構成団体・員	
区分	団体等名
医療関係	一般社団法人京都府医師会 一般社団法人京都私立病院協会
	一般社団法人京都精神科病院協会 一般社団法人京都府病院協会
	公益社団法人京都府看護協会 京都透析医会
福祉関係	社会福祉法人京都府社会福祉協議会
	社会福祉法人京都市社会福祉協議会
	一般社団法人京都府老人福祉施設協議会
	一般社団法人京都市老人福祉施設協議会
	一般社団法人京都府介護老人保健施設協会
	京都府障害厚生施設協議会
	京都知的障害者福祉施設協議会
	京都府ホームヘルパー連絡協議会
	社団法人京都府介護支援専門員会
	一般社団法人京都社会福祉士会
	一般社団法人京都府介護福祉士会
	京都府児童福祉施設連絡協議会
	京都児童養護施設長会
	京都市身体障害者福祉施設長協議会
京都府社会福祉法人経営者協議会	
一般社団法人京都府保育協会	
公益社団法人京都市保育園連盟	
行政関係	京都府 京都市
	福知山市 舞鶴市
	綾部市 宮津市
	南丹市 京丹波町
	伊根市

# ハード整備

誰もが安心して避難できる避難所の設置に向けて



# 避難所のユニバーサルデザイン化の推進

だれもが安心して過ごせる避難所を目指して

## 避難所のユニバーサルデザインに 向けた取組ガイドライン

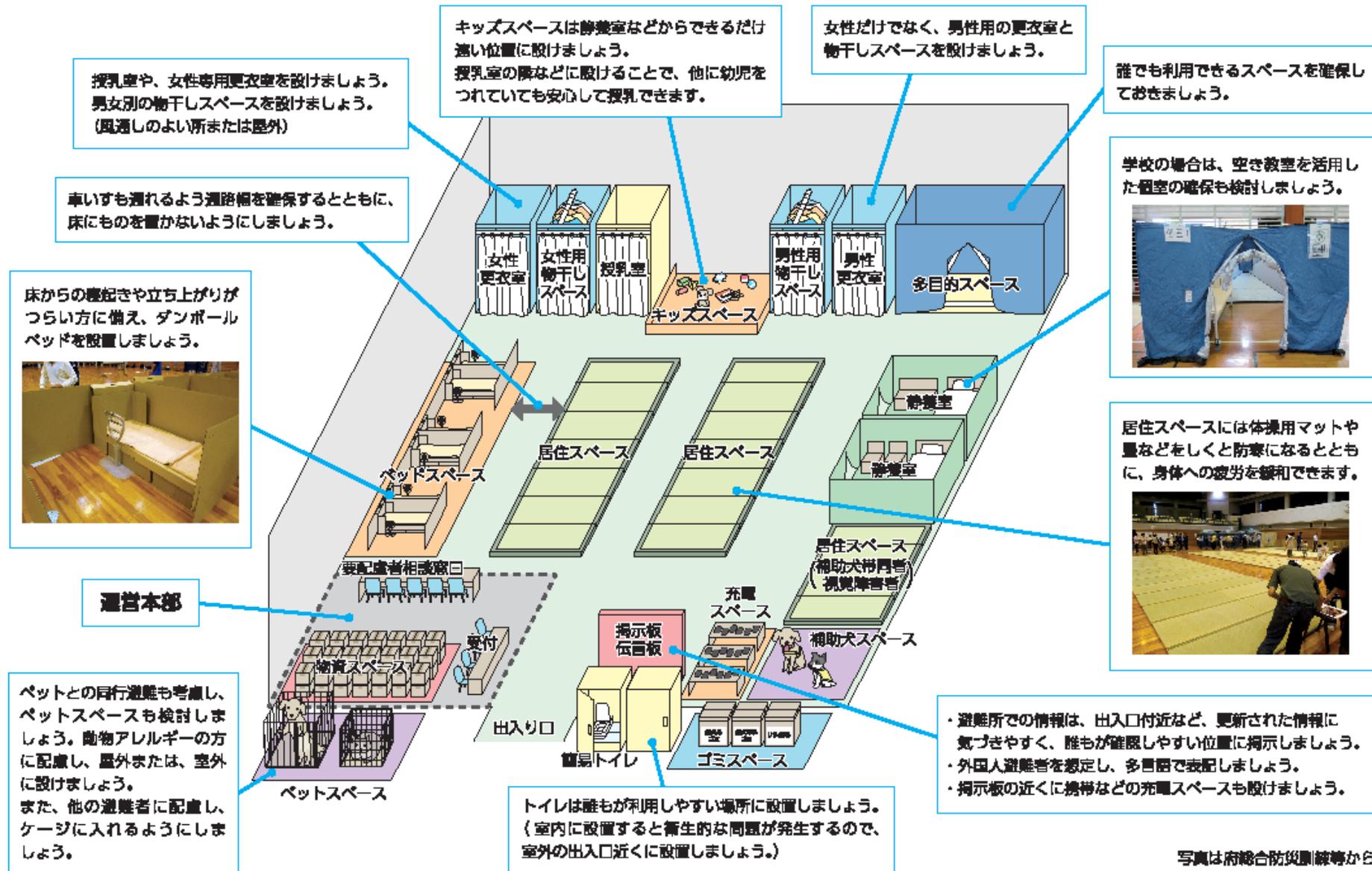
(福祉避難コーナー設置ガイドライン)



平成31年3月 京都府

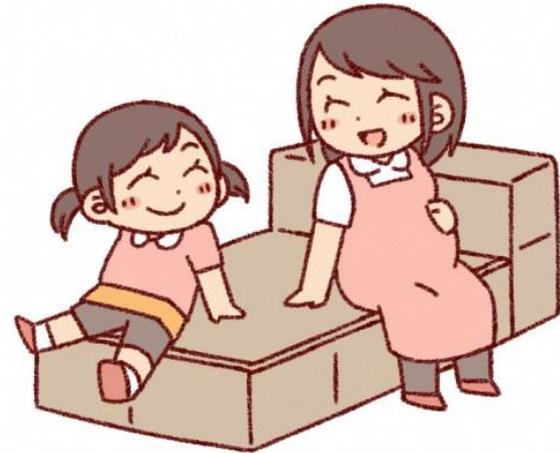
- ・市町村や避難所設置者向けに「福祉避難コーナー設置ガイドライン」を平成25年度に作成
- ・これまでの災害・災害支援の経験を踏まえ、平成31年3月に、誰もが安心して過ごせる避難所を目指して「避難所のユニバーサルデザインに向けた取組ガイドライン」として改定
- ・市町村において避難所訓練において活用

### 3 避難所レイアウト例（長期避難生活を想定の場合）



# ガイドラインの具体的な内容

- ・ 相談窓口（福祉・なんでも相談）
- ・ 静養室（短期、長期）
- ・ 授乳室や更衣室
- ・ 段ボールベッド、タッチアップの配置
- ・ 育児室、キッズコーナー
- ・ 補助犬コーナー
- ・ 女性視点での配置（トイレ、物干し、防犯等）
- ・ 性別、宗教など多様な避難者に考慮したスペース
- ・ ペット同伴避難者への配慮



# 市町村防災訓練での活用例



個室(プライベートルーム)

プライバシーの確保、感染症  
防止等、様々な用途に活用



段ボールベッド

寒暖差対策、高齢者、歩行困  
難者など幅広く活用  
※介助側の負担も軽減

# 市町村防災訓練での活用例



授乳室

プライバシーの配慮、安心できる時間・場所



キッズスペース

子どもたちの遊び場を確保  
※居住スペースから離す

# 市町村防災訓練での活用例



案内掲示板

絵や大きな字を用いて分かりやすく(外国語表記含む)



畳(災害用の軽量なもの)

夏は涼しく冬は暖かい(通路の確保にも活用)※初期対応

# 近年の避難所（H30西日本豪雨）



平成30年7月10日頃

- ・暑い中、ビニルシートの上で過ごす
- ・雑然とし通路もあいまい
- ・どこに誰が過ごしているのか不明



平成30年7月20日頃（10日後の様子）

- ・段ボールベッドと間仕切りの設置  
→居住・衛生環境の向上だけでなく、プライバシーの確保、利用者の把握も容易に。

# 近年の避難所（H30西日本豪雨）



避難所の全景（上）と教室の利用（右）

# 近年の避難所（H30西日本豪雨）



**国のプッシュ型支援で、体育館、教室  
避難所に冷房が設置。**

# 近年の避難所の状況(令和2年7月豪雨:コロナ対応)



# 近年の避難所の状況(令和3年福島県沖地震:コロナ対応)



# 実際の避難所の状況（令和6年能登半島地震）



# 人材育成



安心して避難生活を送るための専門人材の育成



# 支援場所・場面別での福祉支援人材の育成

## 1. 福祉避難サポーター(共助・近助:自地域での「自助」)

災害時に要配慮者の避難や避難所での生活をサポートする者で、要配慮者支援に理解のある地域住民を想定。(要配慮者班で活動)

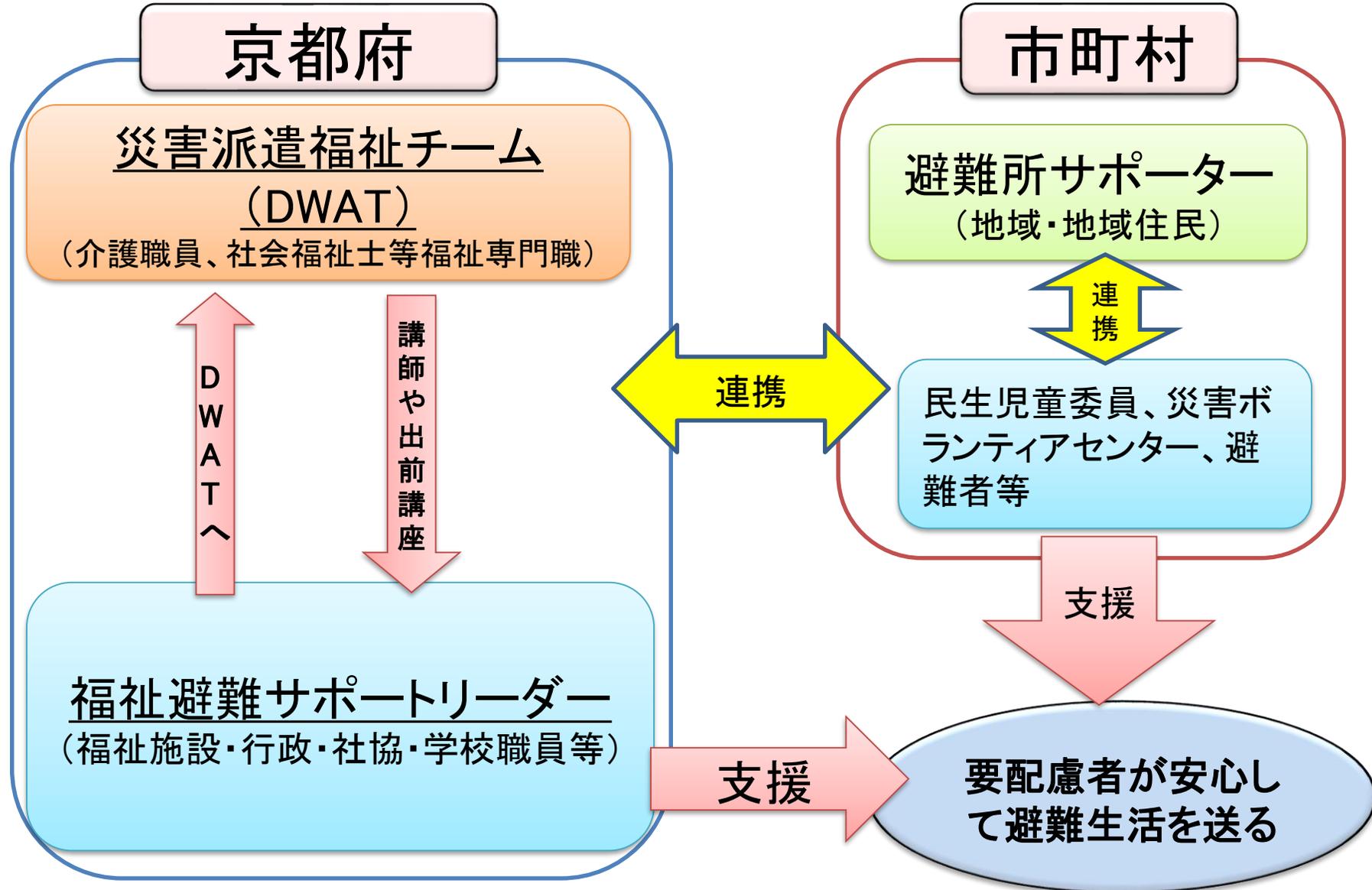
## 2. 福祉避難サポートリーダー(共助)

災害時に避難所等で要配慮者支援をリードする者で、平時より要配慮者と関わりのある福祉や教育等の関係者を想定。

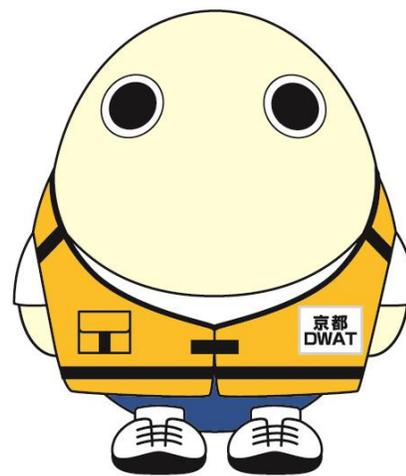
## 3. 災害派遣福祉チーム(京都DWAT)(公助:多職種連携)

災害時に一般避難所に派遣され、要配慮者の二次被害を防ぐための福祉専門職からなるチーム。災害時には他地域で活動し、平時には自地域で活動する。

# 災害時における福祉支援の人材養成



人材育成



京都  
DWAT

# 京都府災害派遣福祉チーム“京都DWAT”

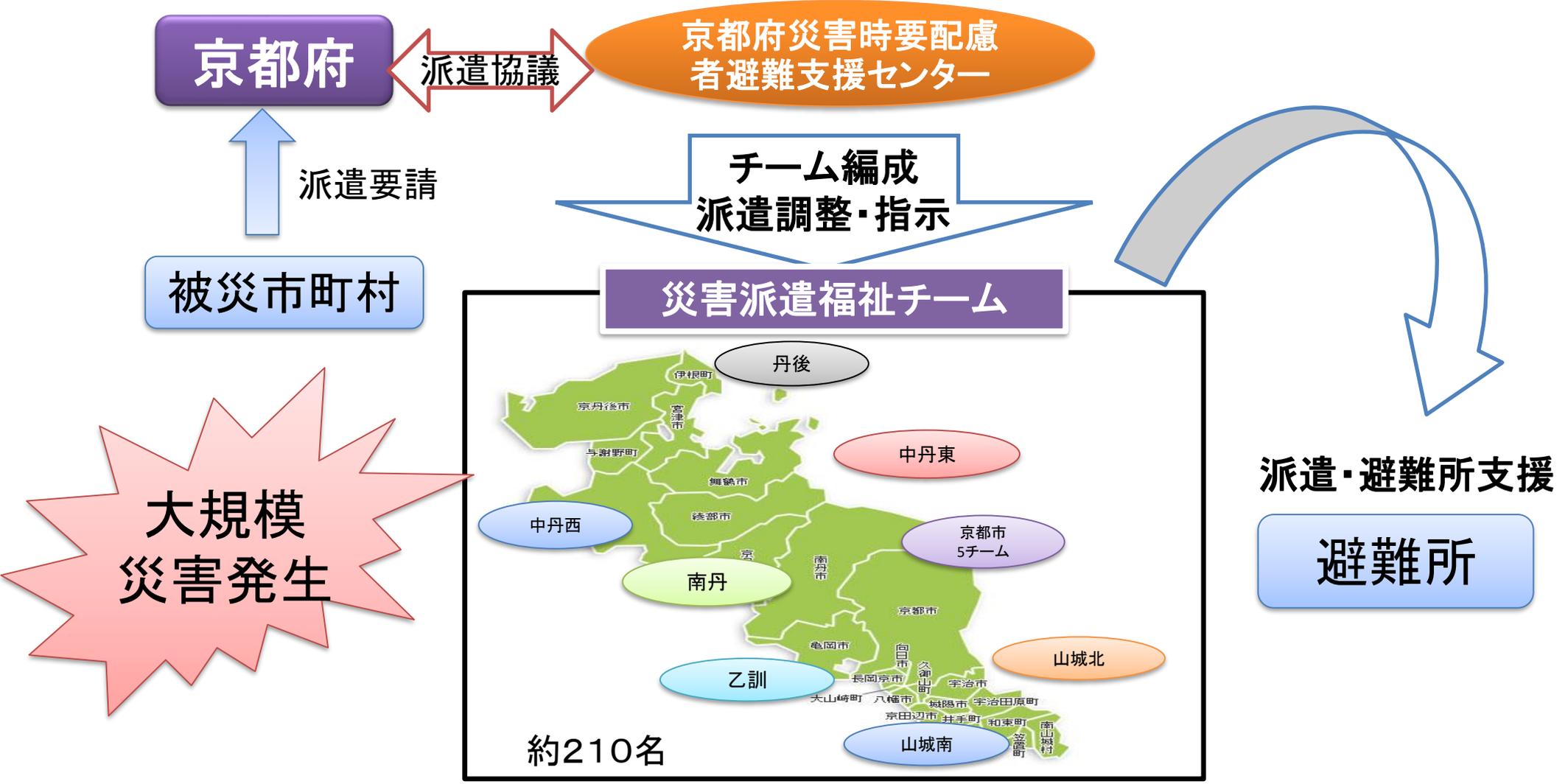


 DWAT

Japan Disaster Welfare Assistance Team

災害派遣福祉チーム

# 京都府災害派遣福祉チーム(DWAT)の災害支援体制(府内時)



# これまでの派遣活動実績

## 【派遣実績】

	H28年熊本地震	H30年西日本豪雨	R6年能登半島地震
期 間	H28.5.13～5.31	H30.7.20～8.13	R6.1.8～3.29
派遣人数	15名(5名×3班)	24名(4名×6班)	41名(2名体制)
派遣先	益城町情報交流センター	倉敷市立岡田小学校	七尾市市内 (主に7か所)

## 【活動内容】

- ・避難所**環境の整備**(段差をなくす、通路の確保、二足制の導入など)
- ・配慮を要する方への必要な支援の**聞き取り**
- ・避難されている方々からの悩みや困りごとの**相談**
- ・市町村、医療救護班、保健活動班などと**連携した要配慮者の支援**

# 保健・医療・福祉合同チーム（多職種連携）



**保健・医療・福祉チームが連携し、避難者の健康管理、生活支援を実施。**

保健師チームと合同でアセスメント、JRATとリハビリテーション体操など



# 寄り添い支援（直接支援）



直接支援は、福祉専門職の専門分野。  
避難所内を安心して移動、過ごすこと  
の手助け



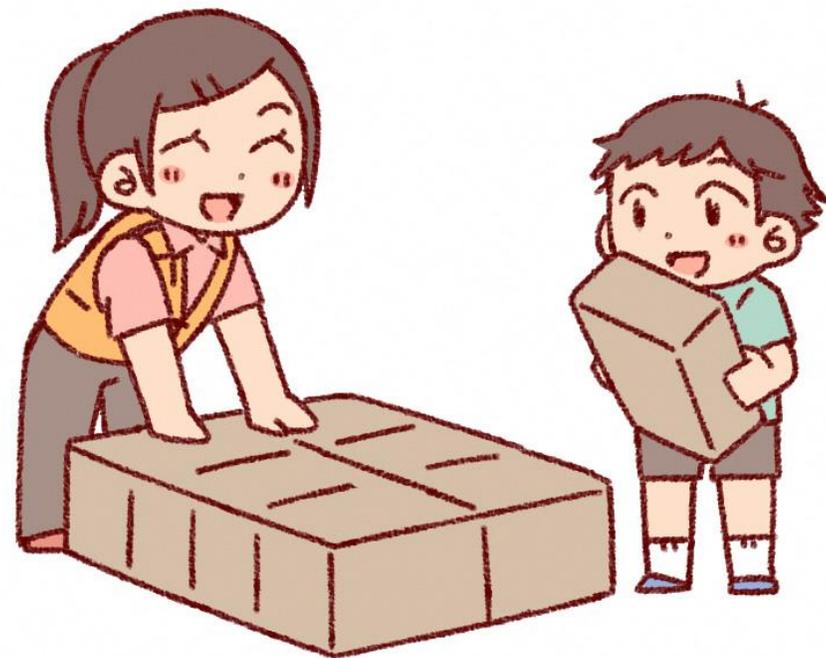
視覚障害の方や高齢者への寄り添い支援

# 避難所の環境整備

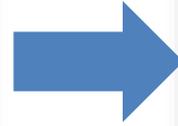


# 人材育成

## 派遣経験を踏まえた訓練の実施及び平時の地域と連携した取組



## 避難所運営訓練での**保健医療福祉**の連携



保健師(看護師)とDWATの合同アセスメント(健康調査)結果により、救護班、DPAT(災害派遣精神医療チーム)、助産師班等医療チームに引き継ぎ

# 避難所保健医療福祉活動チーム合同調整会議(ミーティング)



# 保健医療福祉調整支部訓練 (R6京都市総合防災訓練)



## 平時の活動（地域の防災訓練に参加）

地域で開催された防災訓練にて地域住民の協力（要配慮者役）のもと、アセスメント訓練を実施（避難生活の安心感：自助、共助へ）



# 平時の活動（地域のイベント・講習会等に参加）



防災人材育成研修講師



自主防災組織訓練への参加



防災イベントへの参加



福祉施設での活動報告



児童館（放課後児童クラブ）での  
防災教室



高校での防災授業の実施

# 平時の活動（チーム員の施設と地域が連携した取組）

DWATのチーム員施設での防災の取組に地域住民、自主防災組織、消防団、女性会等が参加。地域の防災力を高める取組を実施（地域連携＝共助へ）



## 平時の活動（近隣府県との連携）

兵庫県丹波地域合同防災訓練に参加（公助、多職種連携）

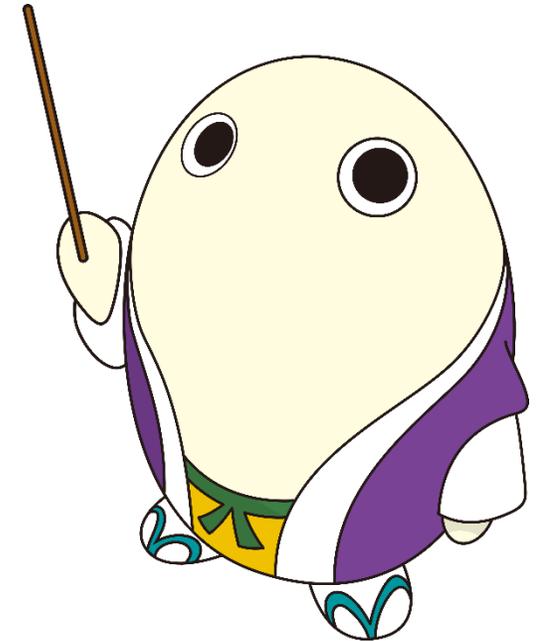
丹波市（兵庫県）の要請により京都DWAT中丹西チームが丹波市内の避難所に派遣

→要配慮者のアセスメントの実施、福祉避難所移送等

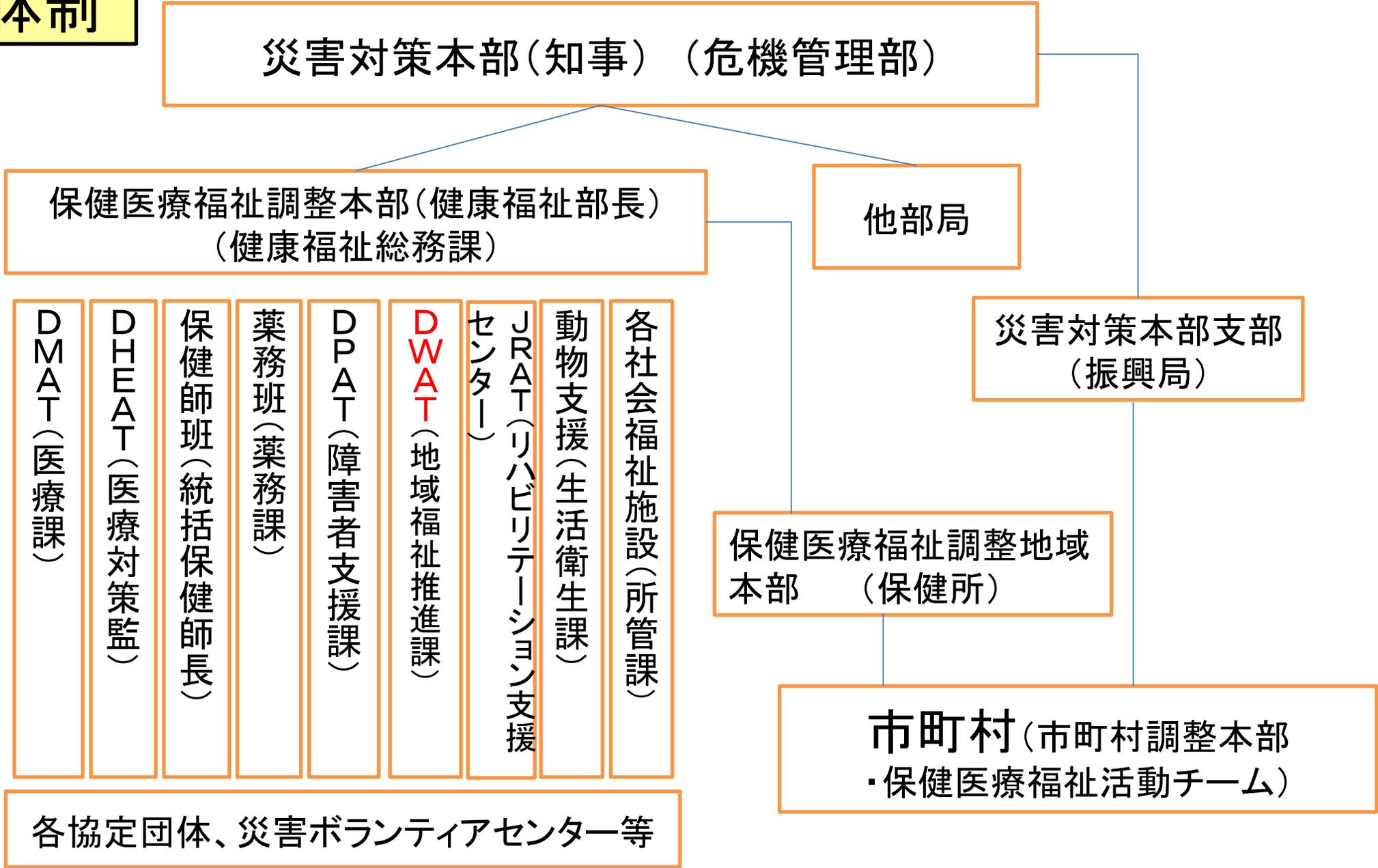


# 府庁内の体制整備

庁内連携・各支援チーム等と及び位置づけ



# 庁内外体制



# 保健医療福祉調整本部・地域本部の位置づけ

## ○京都府地域防災計画

### 第10節 保健医療福祉調整本部等運用計画

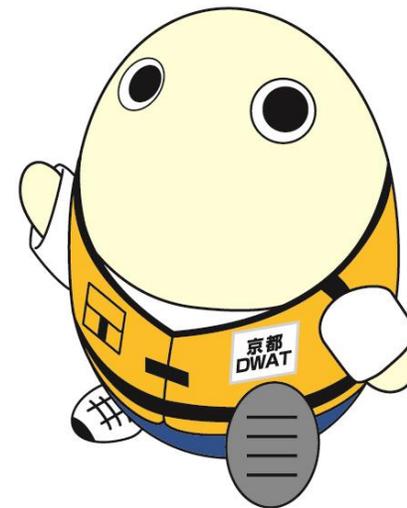
#### 第1 保健医療福祉調整本部・調整支部の設置趣旨

災害時に被災状況、関係機関の対応状況等の情報を集約・分析・提供し、健康福祉部の本庁及び保健所、各地域機関、保健医療福祉活動チームが、一体となって組織的な保健医療福祉活動を行うため、保健医療福祉調整本部(以下「調整本部」という。)、同地域本部(以下「地域本部」という。)を設置する。

※本部:本庁(本部長:健康福祉部長)、地域本部:保健所(本部長;保健所長)

※ 保健医療福祉活動チーム:災害派遣医療チーム(DMAT)、救護班(医師会、日本赤十字社等)、保健師・管理栄養士チーム、災害時健康管理チーム(DHEAT)、災害派遣福祉チーム(DWAT)、災害派遣精神医療チーム(DPAT)等を指す。

# 今後の方向性



災害にも強い地域づくり、災害関連死ゼロを目指して



## 訓練・平時の活動、災害派遣を通じて

- DMAT隊員（医師）  
治療した後経過を**見守る保健、福祉の連携**があることは**心強い**
- 合同アセスメント（健康調査）を実施した保健師  
保健師とは**違う視点**での**気づきや対応**があった。
- 岡山派遣時の保健師  
避難生活の長期化で**子どもたちのイライラ**は感じていたが対応できなかった。DWATメンバーと一緒に遊ぶなど工夫してくれ**幅広い支援**が必要と感じた。
- 訓練参加者  
合同ミーティングでの**情報共有**、ケース会議など普段の**地域包括ケアの仕組みと同じ**と感じた。
- 日常生活を支えてくれる**福祉専門職が避難所に来てくれるのは安心**

## 重層的な地域システム

要配慮者に「平時にやさしい地域は災害時にもやさしい地域  
(平時にできないことは災害時にもできない)」



平時の活動に「要配慮者に理解のある住民を増やすこと=福祉のまちづくり」  
を位置づけることで、福祉職等が地域で取り組む根拠を作る。

万への備え(将来)⇒地域連携・地域づくり(現在)  
地域に福祉施設・人材がある、あるからこそできる取組  
→平時の防災訓練等の実施で災害にも強い地域に

## 災害にも強い地域を目指して(訓練の大切さ)

平時にできないことは災害時にもできない

平成30年西日本水害時に避難所を運営した地元団体の方の声

- 「平時から避難所運営訓練をしてきたが、今回の水害では訓練通りにできなかった。でも、訓練をしていなかったら、もっとできなかったと思う。」

**平時の活動から⇒災害時にも強い地域へ**

## 二次被害(災害関連死)ゼロを目指して



☆福祉(ふくし)

ふだんの ぐらしの しあわせ

- ・災害時 = 非日常生活 = すべての避難者
- ・避難所内に設置した福祉相談コーナーでの「なんでも相談」。
- ・誰もが要配慮者になる可能性を踏まえた福祉専門職だからできる温かい・寄り添った支援による課題の掘り起こし、そして多職種連携で二次被害ゼロ！

(案)

令和7年 月 日

京都府議会議長 荒 卷 隆 三 殿

安心・安全な暮らしに関する特別委員長 宮 下 友紀子

### 閉会中の継続審査及び調査要求書

本委員会に付されている事件は、下記の理由により、引き続き審査及び調査を要するものと認めるから、京都府議会会議規則第75条の規定により申し出ます。

### 記

#### 1 件 名

自然災害に対する防災・減災対策、複雑化する犯罪への対応、感染症に備えた保健・医療・介護体制の構築など、府民の安心・安全の実現に向けた施策について

#### 2 理 由

審査及び調査が終了しないため

令和7年5月22日

京都府議会議長 石田宗久 殿

安心・安全な暮らしに関する特別委員長 磯野 勝

安心・安全な暮らしに関する特別委員会中間報告書

京都府議会議事規則第46条第2項の規定により、令和6年5月府議会臨時会閉会後から現在に至るまで、本委員会が調査及び研究してきた状況について、別紙のとおり中間報告いたします。



(別紙)

## 安心・安全な暮らしに関する特別委員会中間報告書

### 1 本委員会の設置目的

自然災害に対する防災・減災対策、複雑化する犯罪への対応、感染症に備えた保健・医療・介護体制の構築など、府民の安心・安全の実現に向けた施策について調査し、及び研究する。

### 2 本委員会の活動状況

#### (1) 委員会の開催について

- 令和6年6月7日、第6委員会室において、関係理事者から所管事項に係る事務事業概要について説明を聴取した。また、今期の委員会運営方針について協議を行うとともに、今後の調査・研究テーマについて委員間討議を行った。
- 令和6年6月26日、第6委員会室において、「災害に強い地域づくりについて」をテーマに委員会を開催した。関係理事者から本府における取組状況の説明を聴取し、これに対する質疑を行った。
- 令和6年10月1日、第6委員会室において、公益社団法人日本食品衛生協会理事 道野 英司 氏を参考人として招致し、「食の安心・安全の確保について」をテーマに委員会を開催した。関係理事者から本府における取組状況の説明を聴取した後、当該参考人から、食の安全とHACCPの制度化等について説明及び意見を聴取し、これに対する質疑を行った。
- 令和6年12月17日、第6委員会室において、京都ノートルダム女子大学現代人間学部こども教育学科 教授 神月 紀輔 氏を参考人として招致し、「デジタル社会に対応した防犯対策及び教育の推進について」をテーマに委員会を開催した。関係理事者から本府における取組状況の説明を聴取した後、当該参考人から、ネット上のトラブルやそれに対する情報教育・情報モラル教育、デジタル・シチズンシップ等について説明及び意見を聴取し、これに対する質疑を行った。
- 令和7年3月17日、第6委員会室において、京都府立大学生命環境科学研究科准教授 荒木 裕子 氏を参考人として招致し、「避難所における良好な生活環境の確保について」をテーマに委員会を開催した。関係理事者から本府における取組状況の説明を聴取した後、当該参考人から、避難所の生活環境や災害対応体制の課題等について説明及び意見を聴取し、これに対する質疑を行った。
- 令和7年5月22日、第6委員会室において、中間報告に係る協議を行った。最後に、今期1年間の委員会活動に係る所感、要望等の意見開陳を行った。

## (2) 管外調査の実施について

以下の取組について調査を行った。

○調査日：令和6年8月21日

調査先：国土交通省国土技術政策総合研究所（国総研）（茨城県つくば市）

調査事項：国総研における防災・減災、国土強靱化の取組について

国総研は、住宅・社会資本分野における唯一の国の研究機関として、年間約300の研究テーマを扱うほか、日頃から国の機関や地方公共団体等に対し、政策実施や事業施行に関する様々な技術支援（年間約2,000件）を行っている。職員約350名のうち、4分の3が研究職で、1人1テーマを基本にチームで研究に取り組んでいる。また、地方公共団体や民間企業等の外部の技術者を国総研の研究員として受け入れる交流研究員制度を導入しており、現場技術力の向上を支援している。

防災・減災、国土強靱化の取組として、設計方法や評価方法に係る研究、点検の効率化に向けた技術開発などに取り組むとともに、インフラDXについては、データセンターの構築やAIによる港湾施設の効率的な点検方法の開発など、現場でのDX普及のための支援を行っている。

また、災害時にはTEC-FORCE（緊急災害対策派遣隊）を派遣し、二次災害の防止や応急復旧のための支援などを行っており、令和6年能登半島地震では、七尾市に復興支援室を設置し、専門家の立場から復旧の技術的な支援を実施している。

これらの活動を通して収集したデータを再整理し、技術基準の改定や具体的なインフラ整備の計画策定など、研究や現場の支援のために活用しているとのことであった。

○調査日：令和6年8月22日

調査先：神栖市役所〔於：かみす防災アリーナ〕（茨城県神栖市）

調査事項：地域の防災拠点としてのかみす防災アリーナについて

神栖市は、災害時には避難所や救援救護のスペース等となる防災拠点として、また、平常時には、スポーツや各種イベントの開催で多くの市民が集い、にぎわいをつくる施設として、平成31年3月、かみす防災アリーナを整備した。

同アリーナは、平成26年に開園した神栖中央公園に正対し、公園機能を補完している。スポーツ施設と文化施設、各種交流機能をつなぎ、利用者の導線の中心となるコリドーは、災害時における使いやすさや利用者のコミュニケーションを誘発し、居心地のよい空間を意識したものとなっている。

また、約2,500席の観客席を有するメインアリーナは、自然光を採り入れる採光としており、災害時には避難・救援救護スペースとして、隣には、2千人分の食料備蓄と毛布やマットなどの資機材を備えた備蓄倉庫を整備している。

館内には平常時・災害時ともに活動しやすく、災害時にも生かせるよう、プラコ  
ンテナと車輪を用いた動かせる家具や屋台を特注し、配置することにより、多様  
なアレンジが可能となっている。

一時避難で約1万人、中長期避難で約2千人の収容を想定、非常用電源は概ね  
3日分、雑用水はプール水と雨水貯水槽により1週間分を確保しているとのこと  
であった。

○調査日：令和6年8月22日

調査先：千葉県庁〔於：千葉県総合救急災害医療センター〕（千葉県千葉市）

調査事項：千葉県総合救急災害医療センターの開所による医療提供体制等の強化  
について

千葉県は、救急医療を担う千葉県救急医療センターと精神科救急を担う千葉県精  
神科医療センターを統合し、令和5年11月、千葉県総合救急災害医療センターを開  
所した。

救命救急医療部分では、100床とコンパクトな病床数である機動性を生かし、全  
ての部門を24時間365日体制で運用し、各科専門の医師が初療から協働して関わる  
特徴的な治療体制で診療を行っている。また、ハイブリッドERを初療室で運用し、  
救命率の向上を図るとともに、最重症患者を受け入れるICUに隣接した、国内最  
大級のエレベーターを設置することで、安全な患者搬送及び迅速な診療に配慮して  
いる。

精神科救急医療では、前身の千葉県精神科医療センターが日本初の精神科救急医  
療専門病院として、手厚い人員配置を行い、救急外来、在宅ケアを支えるデイケア、  
アウトリーチセンターなど、多機能集約的な医療施設として治療を行ってきた。本  
センターにおいて、急性かつ重症なケースを24時間体制で受け入れ、早期治療・社  
会復帰に向け、身体・精神の総合的な救急医療を提供するとともに、併設される千  
葉県精神保健福祉センターとの連携により、福祉と医療の円滑かつ迅速な橋渡しを  
目指している。

災害医療については、各種災害対策のための設備や機器整備と合わせて、多様な  
実践訓練の実施やDMAT（災害派遣医療チーム）、DPAT（災害派遣精神医療  
チーム）の連携強化を進めており、DMAT、DPATを同一病院で運用すること  
で、災害時においても、身体・精神両面にわたる総合的な救急医療を提供できる体  
制を整備していくとのことであった。

### 3 本委員会の所管に係る主な動き

○ 令和6年7月、京都府は、危機管理拠点としての機能を強化するため、令和6年  
3月1日の主要機能の運用開始を経て、京都府危機管理センターの全面運用を開始

した。

- 令和6年11月、京都府警察は、サイバー犯罪の被害防止活動に貢献している学生ボランティアの気運を高め、活動の更なる拡充を図るため、学生サイバー防犯ボランティア「京都府警察CYCOT（サイコット）」を発足させた。
- 令和7年1月、政府は、防災庁の設置に向け、近年激甚化・頻発化する災害や今後差し迫る巨大災害に対し、政府として強化すべき防災施策の方向性と、そのために必要な組織体制の在り方等について、外部有識者から意見を聴取するため、防災庁設置準備アドバイザー会議を開催した。
- 令和7年4月、国立国際医療研究センターと国立感染症研究所が統合し、政府に科学的知見を提供する新たな専門家組織として、感染症等の情報分析・研究・危機対応、人材育成、国際協力、医療の提供等を一体的・包括的に行う国立健康危機管理研究機構が設立された。

#### 4 残された主な課題

本委員会の設置目的に掲げられた諸課題について、調査及び研究を進めた結果、なお引き続き調査及び研究を要する次のような課題が残されていると考える。

- 想定を超える災害が頻発する中、風水害や地震などの大規模災害に加え、感染症のまん延による複合災害等、あらゆる危機事象に適時的確に対応するための危機管理体制とハード・ソフト両面の基盤の整備・強化
- 危機事象が発生した際に高齢者等要配慮者に対応する体制づくり
- 人口減少社会における、新しい技術の活用を視野に入れた安心・安全な社会を実現するための取組
- サイバー犯罪から府民を守るための取組
- 食料安全保障のための取組

# 安心・安全な暮らしに関する特別委員会 活動状況 <付録>

(令和6年5月～令和7年5月)

年月日	区分	主な内容
6. 5.24	委員会	1 委員長の選任 2 副委員長の選任 3 副委員長の順位
6. 7	正副委員長会	1 出席要求理事者 2 確認事項 3 本日の委員会運営
6. 7	委員会	1 出席要求理事者 2 確認事項 3 所管事項に係る事務事業概要 4 今期の委員会運営方針 5 委員間討議 「今後の調査・研究テーマについて」 6 今後の委員会運営
6.14	正副委員長会	1 定例会中の委員会運営 2 今後の委員会運営
6.26	委員会	1 所管事項の調査 「災害に強い地域づくりについて」 2 閉会中の継続審査及び調査 3 今後の委員会運営
8.21 ～ 8.22	管外調査	▷ 国土交通省国土技術政策総合研究所（国総研） ▷ 神栖市役所〔於：かみす防災アリーナ〕 ▷ 千葉県庁〔於：千葉県総合救急災害医療センター〕
9.19	正副委員長会	1 定例会中の委員会運営 2 今後の委員会運営
10. 1	委員会	1 所管事項の調査 「食の安心・安全の確保について」 参考人：公益社団法人日本食品衛生協会 理事 道野 英司 氏 2 閉会中の継続審査及び調査 3 今後の委員会運営
12. 6	正副委員長会	1 定例会中の委員会運営 2 今後の委員会運営
12.17	委員会	1 所管事項の調査 「デジタル社会に対応した防犯対策及び教育の推進について」 参考人：京都ノートルダム女子大学 現代人間学部こども教育学科 教授 神月 紀輔 氏 2 閉会中の継続審査及び調査 3 今後の委員会運営
7. 3.13	正副委員長会	1 確認事項 2 定例会中の委員会運営 3 今後の委員会運営

年月日	区分	主な内容
7. 3.17	委員会	1 確認事項 2 所管事項の調査 「避難所における良好な生活環境の確保について」 参考人：京都府立大学生命環境科学研究科 准教授 荒木 裕子 氏 3 閉会中の継続審査及び調査 4 今後の委員会運営
5.22	正副委員長会	1 臨時会中の委員会運営
5.22	委員会	1 中間報告 2 委員会活動のまとめ ※ 発言内容は別紙のとおり

委員会  
正副委員長会

7回  
6回

管外調査 1回(2日)

## 令和7年5月臨時会 委員会活動のまとめ

### ○西條利洋委員

よろしくお願いいたします。1年間の振り返りをさせていただきます。

まず初めに、様々調整していただきました磯野委員長、津田副委員長、増田副委員長をはじめ様々に議論させていただきました委員の先生方、理事者の皆様、御協力いただいた全ての方に、1年間大変お世話になりましたことを感謝申し上げます。ありがとうございます。

自然災害への防災・減災対策、そして少子高齢化、人口減少といった社会構造の変化に伴う医療・介護・福祉体制の整備など、府民の皆様が安心して暮らせる社会の実現に向けた重要な課題について、調査・研究を深めてまいりました。特に印象に残ったこととしては、管外調査で訪れた茨城県神栖市のかみす防災アリーナです。防災と日常利用が融合した先進的な施設の取組を学ぶ貴重な機会を得ました。平時は市民のスポーツ・文化活動の場、災害時は避難所として迅速に機能転換できる設計となっており、平時・有事の両立を体现していました。非常用電源や備蓄倉庫、浸水対策などの設備に加え、想定外を前提とした設計思想に基づき、地域住民との連携による訓練や日常活用を通じて防災意識を高めている点が非常に印象的でした。京都府でも南海トラフ地震や局地災害に備え、単なる避難所ではなく、平時から地域に開かれた共助拠点となる防災施設の整備が重要です。設計や運用の工夫、地域連携の視点を取り入れ、今後の防災対策に生かしてまいりたいと考えました。

参考人の皆様からは多岐にわたり知見を深める機会をいただきましたことを感謝申し上げます。特にデジタル社会に対応した防犯対策及び教育の推進について、インターネットと子どもを取り巻く現状と課題について確認をいたしました。京都府でも現在、ネット安心アドバイザーによる体験型ネットトラブル対策講座など、啓蒙活動に取り組んでいますが、今後、さらにデジタルシチズンシップの教育を本格的に導入していく必要があると考えていました。今後も子どもたちが安心して育つことのできる社会の実現に向けて、家庭、学校、行政が一体となった取組が求められます。府政にこの学びをしっかりと反映していけるよう、引き続き調査・研究を深めてまいりたいと思います。今後はこうした現場での学びや提言を京都府政にしっかりと反映させ、誰もが安心して健やかに暮らせる社会の実現に向けて取り組んでまいります。

最後になりますが、この1年間の特別委員会における活動の中で大変大きな学びがございました。引き続き、府政の発展に寄与できるよう頑張ってまいりますので、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。大変お世話になりました、ありがとうございました。

### ○森吉治委員

まずもって、磯野委員長、それから津田副委員長、増田副委員長、そして各委員の皆さんには1年間、活発な議論を通じて大変お世話になりました、また運営にも御尽力いただきましてありがとうございました。また、事務局及び理事者、そして参考人の皆さんにも

大変お世話になりました、その点でも感謝を申し上げたいというふうに思っております。

大変幅広いテーマの委員会で、私も委員間討議や参考人からのお話、それから視察などを通じて視野を広げることができましたし、認識を深めることができました。その点でもありがとうございました。その上で幾つか述べさせていただきたいというふうに思っています。

まず最初に、自然災害に対する防災・減災対策について、6月の委員会だったかと思えますけれども、府理事者の概要説明も受けて、理事者とのやり取りや委員会討議を行うことができました、大変有意義な議論ができたのではないかとこのように思いました。その際に私のほうから、昨年度調査された花折断層の被害想定なども踏まえて、民間も含めた新耐震や新・新耐震への対応とともに、災害対応の拠点になる京都府の振興局などの行政庁舎や、また学校等の教育機関の耐震化整備などについて質問もさせていただきました。理事者からは、それぞれの部局において耐震対策がそれぞれ進められているということで答弁もいただきました。私のほうからは、やはりトータルなところで、京都府が責任を持って施設の老朽化なども含めて現状把握がどうなのか、そしていつまでにどう耐震化や新たな整備をしていくのかというプランづくりとそれから実行を、改めて危機感を持って急いでいただきたいということも要請させていただきました。

今年度、様々な機会でも府立大学や府立医科大学、府立病院の学舎や病院の整備の課題が幾たびか、再三議論をされてまいりました。2011年の包括外部監査で、例えば府立大学で言いますと耐震対応が必要というふうな報告も出されていますが、いまだに京都府のほうから整備方針も示されていないという現状もありますし、また各地方振興局の建物も大変老朽化をしております、雨漏りなども含めて日常的に起こっているという話も聞いています。そういった点では、安心・安全な暮らしの基盤になるところにもなりますので、引き続きの課題としてこのテーマを重視していただきたいというふうに、まず思います。

それから、2点目は先ほど西條委員からも出ました委員会の管外調査で訪れた神栖市の防災アリーナについて、市民利用と防災というコンセプトで運用されていました。様々な課題はあるというふうに聞いてはいますけれども、やっぱり整備の過程とかその内容などについては私自身も大変勉強になりました。

それから、12月議会の委員会でネット依存の現状と対策について参考人から教えていただきまして、問題提起として非常に勉強になったかというふうに思っています。特に行政の総合的な対策の必要性が浮き彫りになったというふうに私自身考えています、とかくするとデジタル化そのものについては、これをどう推進するのかという視点で物事を考えがちになるんですけれども、やっぱりネット依存の要因になるストレス社会そのもの、このストレスそのものをどう軽減していくのかということや、またネット依存やリテラシーに関わる教育、それから医療の分野での啓発や体制、そういったものについても整備をしていくことが大変重要だというふうに思いました。

また、オーストラリアなどで動きがあるネット規制などについて、日本の場合はどうしていくのかということなどについても、国全体もそうですけれども、やっぱり府政としてもそれぞれのところでの検討が必要になってくるのではないかとこのように感じました。

それから、HACCPについて、日本食品衛生協会の道野参考人から食品の安全とHACCPの制度化というお話の中で、これも理解を深められました。今後はHACCPの範疇にはなかなか入ってこないPFASですとか、それからゲノム編集食品など新たな課題

に対応して、食の安心・安全の問題も深めていければというふうに思いました。

最後に、本特別委員会は感染症に備えた保健・医療・介護の体制の構築ということも調査課題の対象になっていました。今年度はこのテーマで言いますと、管外調査で千葉県の医療センターなどの視察はありましたけれども、理事者を交えた協議などについてはまだまだ十分持たれていなかったのではないかとこのように思っています、そういった点では、今、医療機関の経営が本当に厳しくなって、医師、看護師不足の中で病床の削減だとか、私が活動しています南区でも病床削減が進んでいるという現状もあって、危機感も地域ではあります。改めて、やっぱり安心・安全の基盤がそういった点でもかなり揺らいでいるというふうな現状もある中で、コロナの総括も含めてこの分野での調査・研究ということが引き続き行われるように要望もさせていただいて、1年間のまとめにしたいと思います。1年間、どうもありがとうございました。

### ○梶原英樹委員

磯野委員長、津田副委員長、増田副委員長をはじめ御一緒させていただきました委員の皆様、また理事者の皆様、事務局の皆様、関係者の皆様に1年間お世話になりましたこと、お礼申し上げます。本当にありがとうございました。

激甚化する自然災害に対する防災・減災対策、複雑化する犯罪への対応、食に対する安全制度など、府民の安心・安全の実現に向けて施策について調査し、多くの学びがあった1年間であったとともに、皆様と未来志向で闊達に議論ができた1年だったと思います。

印象的だったことを振り返らせていただきます。2024年度は京都府内で大きな災害がなかったとはいえ、能登半島では地震から復興を果たそうとする中で、豪雨による甚大な被害が発生し、8月には南海トラフ地震臨時情報が発表、2月には大船渡で林野火災が発生するなど、これまで経験したことがないような災害に多く見舞われた1年だったと思います。

そんな中で、京都府立大学生命環境科学研究科の荒木准教授から、避難所における良好な生活環境の確保について御所見をお聞かせいただきましたが、阪神・淡路大震災から30年たった今でも避難所運営の方法は目で見える形で改善がされていないとのことでした。起こり得ることへの想定と想定外に対して柔軟に対応できる力をつけていかなければならないと思います。でなければ、前述したような経験をしたことがない災害に対応できないのではないかと心配をしております。これから自治会脱退者が増え、さらには少子高齢化に拍車がかかり、地域の衰退が懸念されますが、有事の際には人をもっと巻き込む仕組みづくりが必要だと思えます。

例えば、組織的な役割を確認する想定訓練も必要だと思いますが、知事が掲げるあたたかい京都づくりの実践例として、人を巻き込むコミュニケーション能力の向上の風土づくりなども必要かと思っております。

避難所運営についても、それを支える組織の在り方について抜本的な改革が必要で、本当に大変だとは思いますが、先進的事例を参考にし、自助・共助・公助がバランスよく向上する仕組みの改善をお願い申し上げたいと思います。

最後に、今後、人口減少社会において新しい技術の活用で防災・減災の取組を進めていくことも重要かと思えます。京都新聞でも大きく紹介されていましたが、花折断層の被害想定が公開をされました。オープンデータは国民の財産と多く耳にします。管外調

査では、数々先進事例を拝見させていただきましたが、データは財産と多くの担当者の方が口にされておられました。今後、データの活用という部分も研究し、他自治体の取組と本府の取組を場合によっては比較する何かしらの仕組みというのも議論の余地があるのではないかと考えております。

また、森林が多い本府では、林野火災の研究も今後、進めなければならないと思います。

創意工夫をしておられるお姿を拝見させていただいており、恐縮ではございますけれども、引き続き府民の安全のために御尽力いただきますよう、防災・減災の分野でも日本一を目指していただきますようよろしくお願い申し上げます、本委員会における私のまとめとさせていただきます。1年間、ありがとうございました。

### ○田島祥充委員

まずは、磯野委員長、津田副委員長、増田副委員長をはじめ委員の皆様、そして理事者の皆様、事務局の皆様には大変お世話になり、どうもありがとうございました。

本特別委員会は、府民の皆様が安心・安全に暮らしていただくために時宜に合った必要な施策について探究し、新たな課題を把握するなど、大変意義深い学びを得ることができたと感じております。近年の気候変動により、自然災害も頻発化・激甚化している中で、南海トラフ巨大地震についても今後30年の間に80%の確率で発生するなどの情報もあり、防災・減災、国土強靱化の取組はソフト・ハードともに府民の生命と財産、暮らしを守る上で、非常に重要な取組だというふうに思っております。

また、デジタル社会の進展に伴い、ネット上でのトラブルや犯罪が複雑化し深刻な状況となっておりますが、従来からの電話による詐欺被害も多発していると聞いております。その被害対象は個人から企業、病院や行政などにまで及んでおり、府民及び企業などをそういった犯罪から守ることも重要な取組であろうというふうに考えております。

また、私たちの命を支える食料についても、その大半は輸入に頼っているのが現状であります。昨今の不安定な世界情勢を鑑みると、府内の食料自給率を上げるために、一次産業も守っていくことも大切だと私は考えております。

そういった中で、本特別委員会の管外調査では、茨城県つくば市にある国土交通省国土技術政策総合研究所の防災・減災、国土強靱化の取組、茨城県神栖市の地域の防災拠点となっているかみす防災アリーナでの取組、千葉県千葉市の総合救急災害医療センターでの医療提供体制等の取組の強化について学ばせていただきました。

いずれにいたしましても安心・安全な暮らしは誰もが求めていることであるというふうに思っておりますし、全ての営みの土台となっているというふうに考えております。不断の取組を進めていく必要があるというふうに私も思っておりますので、引き続きこのテーマを探究しつつ、活動してまいりたいというふうに思いますけれども、理事者の皆様にも、これまでの取組を止めることなく、不断の取組をまた進めていっていただきたいというふうなことを求めて、私の1年間のまとめとさせていただきます。1年間お世話になりました、どうもありがとうございました。

### ○上倉淑敬委員

磯野委員長、津田・増田両副委員長をはじめ委員の皆様、理事者の皆様、事務局の皆様にも大変お世話になりました、ありがとうございました。

本委員会は自然災害に対する防災や減災対策など、府民の安心・安全の実現に向けた施策の調査・研究というのがテーマとなっておりますが、各定例会で様々工夫して参考人をお招きしていただきまして学べたことを改めて感謝申し上げたいと思います。

特に12月定例会でのノートルダム女子大の神月教授からデジタル社会に対応した防犯対策や教育の推進についてお話をいただきましたけれども、今後、さらに増え続けるであろうデジタル社会特有の犯罪などについて対策が後手とならないよう、しっかりと先進的な取組や教育の必要性について学ばせていただきましたし、本府の施策においても大変重要なことであろうかと思しますので、本委員会での学びを生かしてまいりたいと思います。

また、過去の経験を生かして災害時、特に避難所の運営やトイレの問題についてはしっかりと備えていく必要があるということも、改めて学ばせていただきましたので、本府の施策にも生かしていただきたいというふうに思います。

災害に関して言えば、本府でも常設の危機管理センターの運用が始まっていますが、さらなる防災への備え、基盤整備や基盤の強化を期待いたしまして、まとめとさせていただきます。1年間、どうもありがとうございました。

#### ○島田敬子委員

磯野委員長、津田・増田両副委員長をはじめ委員の皆様、事務局の皆様、そして理事者の皆様、大変お世話になりました。ありがとうございます。

たくさんの学びを得ました。私が特に印象に残った2つについて発言し、まとめといたします。

お話がありました12月定例会の、デジタル社会に対応した防犯対策及び教育の推進について、京都ノートルダム女子大学の神月先生をお招きして学んだテーマです。内閣府の青少年インターネット利用環境実態調査で、低年齢化が進んで子どものネット依存が広がり、いろいろな問題を生じていることは日々感じていただけにショックでした、衝撃でした。諸外国では既にSNSを通じた若者の自殺、あるいは性的搾取、フェイクなどの問題、さらにこの電子メディアの中毒性を指摘した勧告や提訴などが続いていること、子どもたちを守るための法整備も進んでいることを知りましたが、参考人からも子どもに対してはある程度線引きが必要などのお答えもございました。その折、事前学習で仙台市教育委員会と東北大学の川島先生のグループの調査結果なども学びまして、ネット習慣の強い子どもの脳の発達が阻害されていることや学力が下がっていることなど、日本のGIGAスクール構想以降の全国学力調査での負の相関関係も明らかになっていることも知りましたので、ICT教育の在り方等については本会議でも問題提起を行う質問をさせていただいたところでございます。

もう一つは、災害に強い地域づくりについてと避難所における良好な生活環境の確保についてです。京都府内における過去の災害について、また組織体制、防災計画などの危機管理体制、京都府における災害への備えと対応に関する取組をお聞かせいただき学びました。そして、今回は令和6年の能登半島地震に関する京都府の支援等の経験を踏まえて振り返ることができました。いろいろな取組、京都府の計画、施策、そしてその到達等についてももう少し突っ込んで深める議論が必要ではなかったかなと思っております。阪神・淡路大震災から30年、数々災害を経験してきましたけれども、能登半島地震では避難所の雑魚寝や冷たい食事、断熱性のない仮設住宅など、30年前と同じ劣悪な状況が繰り返され、

災害関連死も増え続けているということで、政治の責任が鋭く問われていると実感をいたしました。当初予算案には、高い確率で予想される南海トラフ地震等の大規模災害に備えた対応力強化など、生活環境改善事業費、災害時の要配慮者支援体制構築が上げられまして、現在、要支援者の個別避難計画策定作業も続けられていると承知をしておりますが、これらの課題は私自身、これも医療的ケアが必要な方の避難対策等、そして個別支援計画の取組については体制も取っていただいて、引き続きの努力を求めたところでございます。ぜひとも御努力をお願いしたいと思います。そのために、京都府の職員体制も強化をしなければならないのではないかと考えております。

最後に、森委員も指摘をされましたように、安全・安心な暮らしのための基盤としては医療や介護の体制が今、大変危機的、崩壊の状況にあるということもあります。この点では、あまり議論を深めることができませんでしたが、できれば次の課題に上げていただきたいなと考えております。

以上、簡単ではございますが、まとめといたします。1年間、ありがとうございました。

### ○池田正義委員

安心・安全な暮らしに関する特別委員会ということで、磯野委員長、津田、それから増田両副委員長さん、そしてまた、委員の皆さん、理事者の皆さん、1年間本当にいろいろとお世話になり、ありがとうございました。

委員会の中でも様々な勉強もさせていただいたというふうに思っておりますし、とりわけこの委員会の中では、災害であるとかそういったものに対する対応といいますか、そんなことを思い返してみますと、やはり近年、本当に様々な地域で災害は起こっておりますけれども、短時間の豪雨であるとかそういったことによって、土砂崩れであったり、本当に想定しないことが結構発生しております。そういったものに対して、どう私たちの暮らしの安心・安全を守っていくのかというのも大きなテーマであるというふうに思っておりますし、当然その事象が起こった後の災害復旧や人命救助であるとか様々な面で、これまでにない部分がこれからはそういった対応をしていかなければならないことが起きてくるのかなというようなことも感じさせていただいた1年でもございます。

とりわけ、気候変動といいますか、そういったものがもたらすその地球環境への影響、私はちょうど北部の日本海側に生活しておりますので、気候変動に伴う海面上昇であるとかそういったものも、とりわけ私たちは由良川の水を生活の用水としております。海面上昇がありますと、当然海水が遡上してくる、そういったことも含めると、これからそういったところにも十分配慮をしながら、そしてまた、そういったことが起きてくるということを前提に、様々な生活のことも考えていかなければならないなというふうに思っております。この委員会での安心・安全な暮らしというのは、府の中でもそれぞれの委員会が横断的に関係する委員会だというふうに思っておりますので、今後、京都府政のこの安心・安全な暮らしを進めていくためには、しっかりとそういった連携をしながら、京都府全体として取り組んでいくことが安心・安全な暮らしにつながってくるんだなというのを感じて1年でもございました。理事者各位におかれましては、それぞれの立場でいろんな想いをいただいていると思いますけれども、今後ともこの委員会も続いていくと思いますので、しっかりと連携をさせていただいて安心・安全な暮らしができるように、様々な角度から御尽力いただきますことをお願いいたします。1年間のまとめとさせていただきます。

す。1年間、本当にお世話になり、ありがとうございました。

### ○山口勝委員

本委員会の設置目的は、自然災害に対する防災・減災対策、複雑化する犯罪への対応、感染症に備えた保健・医療・介護体制の構築という、人々が暮らしていく上においての大前提になる部分をしっかり支えていくことを、所管されている理事者の方々とやり取りをしながらこれまで委員会が開催されてまいりました。

中でも、複雑化する犯罪への対応というのは連日、本当にサイバー的なことも含めて、最近は何か証券口座がたくさん盗まれているとか、本当に日々刻々と私たちの生活が脅威にさらされているということがあります。

そして、自然災害に対しても本当に各地域で様々な形の災害が起こっていると。京都もここ20年の間に様々な問題が対策として取られてきましたが、不断の対策が求められておりますし、とりわけこの5年間においてはコロナの対策においても、その感染症に対する取組というものの中で、脆弱的な問題というのが課題で指摘されてきた状況にもございます。

そういった中にありまして、この委員会においては時宜にかなったテーマに基づいて様々な参考人に来ていただきまして、非常に参考になるようなお話を承ったところでありまして、安心・安全というのは今後も非常に重要な取組として位置づけられるところではないかと思っております。

中でも防災に関しましては、先ほどの島田委員のお話にもありましたけれども、台湾とか諸外国、ぱっと災害時の避難所の状況を見ても、日本とは全然違うなというふうなことがあります。市町村事業で市町村が取り組むようなことでもありますが、TKB、またいわゆるスフィア基準、国際赤十字基準等に基づいた、こういったことを念頭に置いての取組も進めていただいておりますし、また京都版のCDCも開設をされる方向になりましたので、こういったところ辺りの課題についても、この委員会の果たしていくべき役割は大変大きかったものではないかと思っております。本当に参考になりましたので、感謝申し上げたいと思います。

また、委員長、副委員長、各委員におかれましては円滑なる議事運営に御協力いただきましたし、理事者には様々な提案、提言を受け止めていただきました。議会事務局の皆さんにも大変お世話になりました。本当にありがとうございます。感謝申し上げまして1年間のまとめといたします。

以上です。

### ○田中英夫委員

1年間、この委員会におらせていただきまして、それぞれ磯野委員長をはじめ正副委員長、それから委員の皆さんともいい、また交流といいますか、話のし合いができてよかったなというふうに1つは思っております。と同時に、理事者の皆さん方にも議会の事務局の皆さんにも大変お世話になりました。ありがとうございました。

幅広い委員会ではありますけれども、私は、常任委員会も含めて特に自然災害、防災ということが非常に気になっておるといふか、自分の頭の中での大きな関心事になっておるわけでありまして。神栖市におきまして、公民館というか、会場のところどころに、この場

所は災害があったときには避難所になりますと、こういう掲示があったのを何となく、小さなことですが、新鮮に見ました。もちろん、災害って起こってみな分からないわけでありまして、いろんなことを言います。兄弟や親戚や家族や気にしないで自分が早くに逃れることが大事であるとか、この地域では車よりも歩いてそのどどこへ避難しなきゃならんとか、それぞれのところの要件はあるわけでありまして、基本的にやはりなじみのあるところには早く動こうかなという気はするけれども、なじみのないところには、単なる大雨であっても行ってくださいよと言われても、なかなか、うん、なあというところがあるというふうに僕も行政関係におった者としてそういう感覚があります。やっぱりそういう意味では、ああしたことって本当に細かいことではありますが、ああ、ここはそういうのに使えるんだとか、例えばその中の施設としてこの部屋はこういうふうに使えますよとか、ああいうことがちょっと見えておると、何となく、うん、あそこへ行こうかというようなものがあるのかなというふうに結構強烈に僕の印象にはありました。

そんなことを含めて、もちろん府と市町村との行政の担当者といろんなお話されていると思いますけれども、それぞれのところでそうした具体論としてやっぱりなじみをつくっておくということを含めて、どんなことをやられているのかという特徴的なものをおられると思いますけれども、それをそれぞれの府内市町がみんなそういう方法があるかということが分かるような、またそんなことをやっていただけたらありがたいなというふうに思っております。

もう一つは、東南海地震の話でバサッと言われるので、ああ、何となく太平洋側のあの辺は大変だとか京都はどうなるのかなと、大きく考えると京都はどっちかという避難してくるのが多いのかなとか、いや、そうではないかもしれない、山の真ん中辺でこの大きな地震が連動して起こったら何かあるのかなとか、分からないことはたくさんあるわけではありますが、南北に長い京都でありますから、やはりこの辺りは直接被害がありそうやとか、この辺はどちらかというところそういう避難者の方がたくさん来て大変なことになるよとか、何かそういうもうちょっと具体論が僕としては理解できていないので、これから自分としても理解したいなというふうに思っております。神戸沖の大震災のときには亀岡の中で、上の名神が止まりまして、町なかの小さい道路が大阪へ抜けたり北へ抜けたりするのでトラックがずっとそこにとまっていたというのを覚えております。ですから、直接被害ではなくて、被害と言うたら失礼なんですけれども、直接のそうではなくて、それによるそうしたものも起こるなということを経験しているんですけれども、そういうふうにちょっと分けた地域ごとの理解みたいなものを少し勉強してみたいなと思っております。また、いろんなことをお教えいただけたらありがたいなというふうに思っております。

雑駁ですが、ちょっと一、二のテーマだけ鮮烈に覚えておりましたので発言いたしまして、まとめさせていただきます。1年間、ありがとうございました。

#### ○増田大輔副委員長

よろしく願いをいたします。磯野委員長、津田副委員長をはじめ委員の皆様、理事者の皆様には、この1年間、大変お世話になりました。誠にありがとうございました。事務局の皆様も円滑な委員会運営に御尽力いただき、大変お世話になりました。皆様に重ねて感謝を申し上げます。

私自身、初めて務めさせていただきましたこの副委員長として1年間、委員会でお世話になり、大変よい経験と勉強をさせていただきました。昨今、気候変動や地球温暖化の影響などで激甚化する災害や複雑化する犯罪、サイバー空間での対応、また感染症の備えなど、府民の安心・安全な暮らしの実現に向けて京都府政において今委員会が果たす役割は非常に重要であると認識をしております。

そんな中、この1年を通しては災害に強いまちづくり、食の安心・安全の確保について、デジタル社会に対応した防犯対策・教育の推進、避難所における生活環境の確保など様々なテーマで議論、質疑をさせていただき、私自身としましてもいろいろな角度、観点から考えさせていただき、また参考人の皆様、理事者の皆様の答弁などを聞かせていただき知見を得ることができました。

管外調査では、8月に茨城県、千葉県に行かせていただきました。国総研では、現地での事細かな実証や研究、また模型などを活用されていることを知り、このようにして調査をされているのだと知り勉強になりました。かみす防災アリーナの地域拠点としての活用方法では、様々な取組がありました。市民の皆様が憩えるスペースやスポーツ施設としての姿、災害備蓄品の倉庫の確保、そしてアリーナの中から見える公園の景観など、これから京都府にとっても大変参考になるアリーナ視察となりました。

千葉県総合救急災害医療センターでも、様々な感染症などの取組を聞かせていただき、最後にはヘリポートに上がらせていただいて景色を見させていただくことなどをさせていただきました。

京都府民の皆様が安心して暮らせる安全の確保の実現に向け、参考にする他府県、また他都市の取組を今後も研究していただきたいと思います。今後も予想できない災害や犯罪にも緊急で対応していかなければなりません。それ以外の課題も山積しておりますが、私もこの1年間で勉強させていただいたことを議会活動、委員会活動、また地元での議員活動などに生かしてまいりたいと思います。

結びにこの1年間、今委員会に関わる全ての皆様に感謝を申し上げ、まとめとさせていただきます。ありがとうございました。

### ○津田裕也副委員長

まずもって、磯野委員長、増田副委員長、そして委員の皆様、また理事者並びに事務局の皆様には、1年間本当にお世話になり、ありがとうございました。

本特別委員会では、自然災害に対する防災・減災対策、複雑化する犯罪への対応、感染症に備えた保健・医療・介護体制の構築など、府民の安心・安全の実現に向けた施策について調査・研究するため、目的に沿った非常に有意義な1年だったと考えます。

参考人からは、災害に強い地域づくり、食の安心・安全の確保、デジタル社会に対応した防犯対策及び教育の推進、避難所における良好な生活環境の確保などをテーマに知見を深めることができました。最近、ネット証券口座の乗っ取り問題が起こっているように、デジタル社会に対しての対応はもちろんですけれども、全ての方にもアカウントやパスワードの対策、セキュリティソフトの更新、そしてデジタル犯罪におけるリテラシーの向上などがこれからも課題になりますので、理事者の方にはさらなる尽力をお願いいたします。

管外調査で訪れたかみす防災アリーナの取組は、これからの大型施設において、防災の観点を取り入れる取組としては非常に役立つものだったと考えます。委員会活動を通じて

安心・安全と簡単に言うことはできますけれども、実現、維持するためには多方面での取組が必要になり、どれも欠けてはいけないものだとより理解することができました。どんな時代になっても府民が希求するのは安心であり、安全であると府民サービスの根幹を学ぶことができました。

最後に、委員会で1年間学んだことを活かし、京都府政に微力ながらも貢献できるように努力することをお誓い申し上げまして、1年間のまとめとさせていただきます。1年間大変お世話になり、本当にありがとうございました。

### ○磯野勝委員長

昨年5月に委員長に選任されて以来、津田・増田両副委員長をはじめ委員の皆様方には円滑な委員会運営に格段の御協力をいただきましたことを心から感謝申し上げます。また、理事者の皆様におかれましては、この間、本委員会に関わる所管事項の様々な行財政課題解決のため、府政の推進に大変な御尽力をいただき、誠にありがとうございました。おかげをもちまして、大過なく委員長の責務を果たすことができましたことを、この場をお借りいたしまして厚く御礼申し上げます。

本委員会は、自然災害に対する防災・減災対策、複雑化する犯罪への対応、感染症に備えた保健・医療・介護体制の構築など、府民の皆様への安心・安全の実現に向けた施策について調査及び研究を重ねてまいりました。「頻繁・激甚化する自然災害への備え」や「食の安心・安全の確保」、「デジタル社会に対応した防犯対策及び教育の推進」など、府民の安心・安全を守るための施策について調査することにより、非常に幅広い内容を所管し、この1年間、積極的に活動を行ってきたところでございます。

昨年8月の管外調査では、茨城県のかすまき市と神栖市、さらに千葉市にお伺いをいたしまして、防災対策をはじめ国土強靱化の取組、防災アリーナ機能の視察、さらには救急医療、精神科医療センターの役割などを学び、大変貴重なお話を聞かせていただくことができました。

また、各委員におかれましては、様々な行政課題解決のために非常に熱心に御審議をいただきました。理事者の皆様におかれましても、今後の安心・安全な暮らしを守るために積極的に取り組んでいただきますようお願い申し上げます。

最後になりましたが、委員並びに理事者、そしてまた、事務局の皆様におかれましても健康に御留意され、今後ますます御活躍されますことを御祈念申し上げまして、私の御挨拶とさせていただきます。1年間、本当にありがとうございました。

安心・安全な暮らしに関する特別委員会 管内外調査実施状況

1 管外調査

年度	年 月 日	調 査 先 及 び 調 査 事 項
5	5. 8. 31 ～ 9. 1	<ul style="list-style-type: none"> <li>▷ 株式会社ココトモファーム〔於：ココトモワークス〕               <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 農商工福の連携による「誰ひとり取り残さない居場所づくりについて</li> <li>・ 施設視察</li> </ul> </li> <li>▷ あいち・なごや強靱化共創センター               <ul style="list-style-type: none"> <li>・ あいち・なごや強靱化共創センターの取組について</li> <li>・ 施設視察</li> </ul> </li> <li>▷ 愛知県警察本部               <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 愛知県における防犯対策・安全なまちづくりの取組について</li> </ul> </li> <li>▷ 静岡県議会〔於：ファルマバレーセンター〕               <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 健康長寿・自立支援プロジェクトについて</li> <li>・ 施設視察</li> </ul> </li> <li>▷ 静岡県議会               <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 静岡県における防災・減災の取組について</li> </ul> </li> </ul>
6	6. 8. 21 ～ 22	<ul style="list-style-type: none"> <li>▷ 国土交通省国土技術政策総合研究所（国総研）               <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 国総研における防災・減災、国土強靱化の取組について</li> <li>・ 施設視察</li> </ul> </li> <li>▷ 神栖市役所〔於：かみす防災アリーナ〕               <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域の防災拠点としてのかみす防災アリーナについて</li> <li>・ 施設視察</li> </ul> </li> <li>▷ 千葉県庁〔於：千葉県総合救急災害医療センター〕               <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 千葉県総合救急災害医療センターの開所による医療提供体制等の強化について</li> <li>・ 施設視察</li> </ul> </li> </ul>